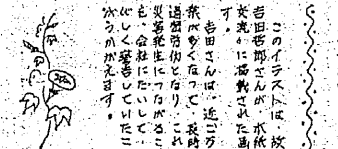


不充分的対策

六石の命令一紙にて消したるは九月十一日の三州宛書は松たけらの増援を頼む
せうらゝに消し去ることの出来ない一大弱情事であった。
とくばつて両城との出入り要路、我城の押附は二回目の今日を遅延・初食
酒迄に持ち支へその機い、是れ新法策のものである。

に全社の対策大體を要するに在りけり

[illegible]

何を決意すべきか

主張

八月十五日といえは太平洋戦争が終つた日であり、同時にわれわれ國民を、さもそれが、宿命でもあるかのやうに戦争に駆り立ててゐた軍國器の使用禁止。さらに四月一日からは敵性樂器の使用禁止。

に、「一杯、二十錢也」の雑炊食堂が店を開く。

三月四日から、宝塚歌劇団の公演休止。同六日から新聞の夕刊廃止。

主義の道を斷ち、かわつて、人類の豊かな未来と平和の創造のためにこそ不斷の努力を傾ける覚悟を固めた日として、忘れることができない。

五月十五日學校工場化方針きまり、六月十九日のマリアナ沖海戦で主力海軍勢力消滅。続いて、七月七日にはサイパン島で玉碎。

七月十日、雑誌「中央公論」

戦われていた太平洋戦争の戦局 集団疎開第一陣が発するが、同

は、昭和十一年にはいる頃から八月十五日の大破局に向かってとみに断末魔の様相を見え始める。その年の二月二十二日、東京で、いち早くビヤホールや百貨店などは、昭和十一年にはいる頃から八月十五日の大破局に向かってとみに断末魔の様相を見え始める。その年の二月二十二日、東京で、いち早くビヤホールや百貨店など

保安の闘いすすめる18分会

上は、ねばり強く歩く
十八分会新聞「交流」

さきの三川鉦落難災害で、仲間の吉田哲郎さんを奪われた十八分会（三川・内電）は、「哲郎さんの死をいぬ死にしてはならぬ」と団結し、困難な条件を克服しながら、職場保安の確立をめざす闘いをねはり強くすすめている。

六月十一日三川鉦の坑内で起き、郎さんを奪われた職場分会。当然なことがつたろうが、分会員は団結し、職場保安の強化をめざして立ちあがった。「哲ちゃん(吉田内労働者をうしなつたばかりというのに、八月三日夜、同じ三川鉦さんの愛称)の死を、いぬ死にで再度同じような落盤が起き、ハしてたまるか」と。

以後分会は、点検活動を不断に強め、しばらく途絶えていた分会新聞「交流」の活動を復活することを決意した。事実また、新聞また、新聞「交流」は以後、吉田さんの命日の十一日を期して、毎月必ず発行する

運動方針など承認

福岡県
評大会

労戦問題に議論が

ともて後を絶たず、くり返し労働者の命がうしなわれている。このとき十八分会（内電・分会）の通り開催されました。

保安の確立をめざす闘いは、注目されなければならぬ。

あの落城災害で、仲間の吉田哲

針が岩崎・県評事務局長より提案

運動の総括と、八一年度の運動方

第一目目は、まず過去一年間の

（員十人）早田正次分会長）の職場

×

死。
 改悪、靖国神社の法制化、天皇制

とんどの都市は早や廢墟に。
そしていよいよ八月十五日、天皇戦争終結詔書をラジオを通じて放送。長かった戦争に終りを告げている。

ポツカリと灯った電灯を、われわれ国民はどんなによろこびあったことか。だがその陰で、原爆による死者は米國で二千万人、ソ連でも一千万人以上と、米國の技術評価局自らが推定していることを知ら

「核戦争の最前線にされている日本は、すでにその前に、きっと影も形もなく沈没しているだろう、ということ」ともい。

現実を見よ

あのときから三十六度めの八月十五日を迎える今、われわれ国民の固い誓いが、また熱い願いが、
きかえに初めて手にすることができ、また次代の国民への尊い遺産でもある平和を、新憲法を、非特
政府・自民党をはじめとするわが三原則を、民主主義を守るために

炭労、保安調査へ

その八月十一日発行の第六十五号は、真つ向うかたねばり強くあの大落盤災害の問題点に切りこみ鋭く責任を追及している。

そろそろ新しい体制も固まりつつあるとき、全職場分会の奮起に

炭労保安調査団が、きたる二十
六日來組、四山と三川両鉱の坑内
に入り坑内保安状況を点検する。
打ち続く炭鉱災害を無視できず、
高温問題などを中心に、災害や事
故の防止をめざす行動だ。

期待する。

なお調査団は、大江・炭労次長を団長に、北海道などから六人が参加する予定。

意見は、「民間大産業の同盟が中心となって、組織攻撃をかけてきている現実の中で、戦線統一の問題を組合員に理解させるのが大変だ」ということで、自然、統一方針が承認されました。

の幹部の発言をめぐり、総評や県評の考え方が求められました。岩崎事務局長より総括的な答弁があつて、第一目を終了しました。

第二目目は、「労働組合と政党との関係」で修正案が提案され、それぞれの代議員から賛成と反対の立場からの活発な発言がなされ

幹事に就任しました

なお 大会には三池労組から、芳川、田口、松岡の三執行委員が出席しました。

また、カ、音韻の中心にはやりました。×

第二日目の労働職練統一の問題に集中されました。

右は、松岡大喜執行委員提供。

その中で、岸崎事務局長より、

分会（港務）
津朝生さん

は港町の合理化で保線係へと強い支配転じた。

口こそしなかったが、写真もたしかに趣味の一つ。以前港

その上夏は炎天下での作業。
▼…三池闘争時は、住んでい
た。酒の方は、晩酌にビール一

ランドのシルフ場）から、分会員仲間とともにホツパーのピケに参加したが、悲しいことに闇の殺中、義父の死を知り、され

の。これまで、代議員や安全委員などをとめてきた活動家。駅員などをとめてきた活動家。と

▼…趣味は切手の収集。はじ

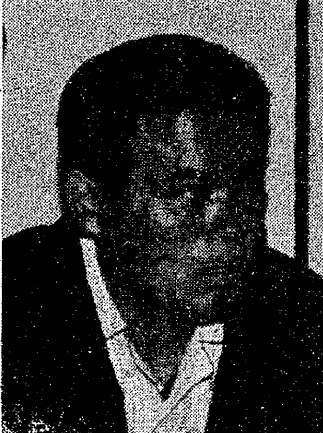
十六分会（港務）
浜津朝生さん



昭和二十二年十二月一日。技術掛 務所入社
 工工場係に勤く。五十四歳。家 技術係といえ主な作業は
 妻のマサエさん(54歳)に ラックの往き交う危険な環境
 22歳、長男の その上夏は炎天の下での作業
 ▼三池闘争時は、住んで

▼入社したときの職場は宮
▼入社したときの職場は宮
▼入社したときの職場は宮

▼：趣味は切手の収集。ハ



浜津さんは54歳。荒尾市妙見杜宅64に、妻の久代さん、2人の子どもさんと住んでいる。

悲慘な体験語りつぐ

大牟田の空襲
第九集を発行



私の書棚

する会では、一九七三年にその第一集を発行、今年で第九集となったものです。

月二十一日に一回目の空襲があり、以来翌年の八月八日までの間に五回の空襲を受け、被災面積三百八十万平方メートル、同戸数一万二千八十戸、死傷者は千二百八十一人にのぼる被害を受けました。

「ふたたびむごい戦争を起こさない決意の証し」として、各分野の報告や座談会、資料や文芸作品が収録されています。